

地域における生涯教育のあり方について

著者	寺岡 行雄
雑誌名	かごしま生涯学習研究 : 大学と地域
巻	1-2
ページ	117-117
発行年	2017-03
URL	http://hdl.handle.net/10232/00029745

巻 頭 言

地域における生涯教育のあり方について

かごしまCOCセンター社会貢献・生涯学習部門長 寺岡 行雄
農学部教授

平成28年4月から、かごしまCOCセンター社会貢献・生涯学習部門長をお引き受けすることになった。これまで社会人の林業技術者養成プログラムを担当してきたものの、私にとって予期せぬお役目であった。平成28年9月に開催された国立大学生涯学習センター系の集まりに立場上参加することとなり、国立大学協会専務理事の山本健慈先生にお目にかかった。山本先生は、成人の教育を主体とした社会教育・生涯学習の研究と実践に取り組んできた教育学者で、平成28年3月までの6年間和歌山大学長を務められ、「生涯あなたの人生を応援します」というメッセージを発信された。

平成28年11月に山本先生が別件で来学された機会に、「鹿児島大学の教育改革における社会人教育の課題と展望を考える」勉強会を開催した。その中で、山本先生が臨時委員を務められる中央教育審議会生涯学習分科会で、平成28年5月に「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」という答申について触れられた。この答申では、「国民の知識基盤の向上や社会の活力の維持のために、多様な学習機会が提供されることは重要で、地域課題の解決等における学習成果の活用という観点から、学習機会提供者にはより地域の課題や社会のニーズに対応した学習機会を充実することが、学習者には成果の活用を意識した学習活動がそれぞれ求められる。学習者、学習機会提供者双方に、地域の課題や社会のニーズに関する情報が共有されることが重要である。また、地方公共団体と大学等が連携して実践的な課題解決型の講座等を充実することが求められる。」と大学が生涯学習に果たす役割について述べられている。

鹿児島大学は生涯学習に関する取り組みについて、平成25年9月19日に制定した生涯学習憲章で「地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します」と宣言している。もっともわかりやすい活動の一つが公開授業で、学生

向けの正規の講義・演習等の授業の一部を地域の一般の皆様へ開放するものである。受講申込者数は平成27年度で約450名、平成28年度で約580名と年々増加しつつある取り組みである。大学の持つ教育資源である授業を一般に公開し学習してもらうことは、地域住民の知的好奇心を満たすというだけでなく、地域の活性化や課題の解決につながる可能性を持っている。地域住民の大学への理解を深めてもらうことが、地域に生きる大学としての基盤になるであろう。

公開授業に関するものの外に、地域における生涯教育のあり方について研究することも、社会貢献・生涯学習部門の役割である。かごしま生涯学習研究—大学と地域の第2号は、「地域の担い手と学習環境」とテーマとして構成、編集している。論文2編のうち、農中論文は、生涯学習の環境整備を行う「社会教育・生涯学習専門職」の鹿児島県内の動向について扱っている。小栗論文では県内の一自治体である天城町での「社会教育・生涯学習専門職」の実態と課題を取り上げ論じている。

大学報告として、河合報告は生涯教育機会を提供する大学としての多様な試みについて紹介し課題と展望について、松浦報告では大学としてのバックヤード、つまり、様々な教育・学習活動を支える大学の組織的な条件整備の現状と課題について報告している。小栗報告では全国レベルでの大学生涯学習を推進する部局の取り組みと今後の方向性について、小栗・酒井報告では、かごしま生涯学習センター研究会の設立とこれまでの活動内容について報告している。

地域報告として、峰岡報告は社会教育・生涯学習を担う一自治体の事例として、神之門報告はレクリエーションという視点から地域の担い手づくりと学習環境整備について報告している。山田・田中報告では地区公民館という社会教育施設として担い手と学習環境の条件整備について、さらに牟田報告では市民団体の立場から若者達の居場所づくりの学習環境づくりについて報告している。

以上の論文と報告の知見が、生涯教育に貢献することを期待している。